

令和4年度 学校評価（評価結果と課題）

1 自己評価結果等

本年度の重点目標		<p>①課題研究を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。</p> <p>②指導と評価の一体化を推進し、全ての教科・科目で主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。</p> <p>③教育活動全体を通じて、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する。</p> <p>④探究活動を重視するとともに、ICT機器を活用した教育を推進する。</p> <p>⑤衛生管理と健康管理を徹底するとともに、教職員の多忙化の解消に努める。</p>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	業務のさらなる効率化を進めるとともに、観点別評価にもとづいた授業改善を進め、主体的に生涯にわたって学び続けることができる資質を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 各担当の業務内容について見直しを進めるとともに、他分掌との連携を深めることで、教務に関する業務のあり方を検討していく。 教科主任会等で教科間の連携を図ることで教科内容の充実を図り、課題探究の基礎となる力を身に付けさせる。 観点別評価が単なる評価を定めるものだけに陥ることなく、高い志を持って学びに向かうことができるような評価及び指導法について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールエンジンの活用による成績処理等の改善を進めることができたが、業務の一元化が進み、担当者への負担が増加してしまった。 教科主任会では事務的な審議等に時間をとられてしまい、教科横断的なカリキュラムマネジメントについての審議までには至らなかった。 観点別評価と評定についての研修会を行い、評価に対する共通理解を形成することができた。非認知能力の指導法・評価法についての検討を進めることはできなかった。
総務	コロナ禍により実施形態等を変えざるをえなかった行事、式典等の今後の望ましいあり方について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 「対面」が重要な要素となる式典においては、放送のみの実施ではなく、リモート技術等を用いるなどして、その意義が実践できるようにする。その際、昨年の方法を改善しよりよい運営を行うよう試みる。 縮小実施が続いているPTA行事の今後の望ましいあり方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 着任式等においてオンライン運営を行った。より安定的に実施できたとは思いますが、年度当初の行事でもあり、生徒の手伝いを多くは期待できない。できるだけ全校生徒が式場に入れることを目指したが、今年度は叶わなかった。 研修会、学年別懇談会を実施することができた。研修旅行は中止とした。感染状況等を見極めながら検討していきたい。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動（挨拶、身だしなみ、言葉遣い）や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 生徒指導提要の改訂や多様性に対応できるように、規定や基準の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻総数は昨年度並みに多い。心の問題を抱え、保健室に寄ってから教室に入る生徒がここ数年、増加している。 昨年度同様、11月から3月まで寒さ対策として私服での登校を許可した。 実際にSNSでのトラブルは起きている。学年、担任から個別に情報収集し、適切かつ迅速に対応していく必要がある。 現在、制服の見直しを検討中である。教員の意見と生徒会が実施した生徒アンケートの意見集約を参考にし、継続審議していく必要がある。 令和6年度からの修学旅行検討は9月に福島方面に決定した。12月に下見し、報告書を作成した。
進路指導	職員間で共通認識を持ち、学校全体で組織的で継続性のある進路指導を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実に向けて、ガイダンス等を改善し、1，2年生における進路意識の高揚を図る。 進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 調査書作成における業務の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に行った名大文系4学部ガイダンス、12月に実施した医学・薬学ガイダンスでは、昨年度と内容が重複しないように工夫して行った。参加者の満足度は高かったが参加人数は昨年度より少なかったため、募集の仕方などを工夫する必要があると思われる。 1年生の進路情報交換会を7月に変更した結果、保護者会での情報発信がより充実したものになったと思われる。学年会の協力を得て、週時程の中で実施できた点は良かった。引き続き学年会との連携を深めていきたい。 スクールエンジンの導入により、作成手順の改訂を行った。来年度は作業の精選を行っていく。

保健 相談	入学したすべての生徒が卒業を目指して心身ともに成長する過程の中で、心の成長に着目した最善の支援を行う。 昨年度から行っている感染症対策を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> 各会議等による情報共有から早期の対応を行い、スクールカウンセラー等との連携をスムーズに行うと同時に、生徒を取り巻く背景を聞き取り、出来る限り改善につなげる。 基本的対応を確実に行うとともに、昨年同様感染予防行動の主体的な取り組みにも目をむかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有した情報については組織的に連携し、適切な対応ができたと思われる。ただ、一部、情報の提供と報告が円滑でないことがあった。スクールカウンセラーには訪問日の見直しと対応への助言を期待する。 感染症第7波、第8波では、感染者も多数発生したが、校内を経路とする感染はかなり抑えられている。
生徒 会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動する。	<ul style="list-style-type: none"> 各行事のもつ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 委員会の担当者引継ぎを確実に進行。 東北被災地関連の企画を継続して行う。 明和祭の計画と準備期間の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して企画運営できた。 生徒が新たなことを始めると負担が増える。難しい問題であり、今後も取り組んでいかなければならない。 コロナ禍以前の行事を体験した生徒がいなかったため難しい面もあるが、生徒はしっかりと取り組んでいる。 恒例行事になり、生徒も工夫しながら真剣に取り組んでいる。 どちらも完遂することができたが、日程の変更による弊害に学校全体として取り組む必要がある。
図書 情報	生徒及び教員の図書利用の活性化 一人一台端末の導入と活用法の研究	<ul style="list-style-type: none"> 生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、「図書館報」「ほいさっさ」などの内容を充実させるとともに、各分掌及び各教科と連携して図書館企画を定期的実施し、図書館利用の活性化を図る。 一人一台端末導入までの作業を円滑に行う。 校内における利用、持ち帰りなどのルールづくりをする。 授業における効果的な利用について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月1日に生徒に一人一台端末を配備した。その後、多くの教科で活用されている。 校内における利用のルールを定め、周知した。 貸与の手続きを行い、自宅への持ち帰りができるようにした。 授業での活用の事例を集め、それをまとめた冊子を作成した。
研究 開発	第Ⅲ期SSHの研究テーマを順次実現させる。 探究活動における評価の方法について検討・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの事業について、できることから手を付けていき、実施後には検証を行うことで、研究を進める。 MCⅠで新教育課程に対応した評価を進めると同時に、今後の探究活動における評価の在り方について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育DXの部分については、様々な面で実現できた。 都市型SSHと学際共創については、検討を進めている段階であるが、中でもタヌキプロジェクトの文部科学大臣賞受賞は大きな成果である。 MCⅠで新教育課程に対応した評価を行った。 次年度MCⅡの評価についても方針を決定した。 SSH事業そのものの評価の在り方については、今後検討していく。
音楽 科	品格を備えた音楽科生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀作法やマナーをわかまえ、公の場でも恥ずかしくない教養を身につける。 多少のことでは動じない、たくましい心を育てる。 他者を思いやり、尊敬する心を持つ。 忍耐強く、努力を惜しまないよう指導する。 時間を守り、ゆとりをもって行動できるよう指導する。 専攻実技と一般教科の学習の両立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は感染症が落ち着いてきたので、定期演奏会など通常に近い形で開催することができた。校外に出る機会が増えたことで、マナーについて考えさせることができた。 自己中心的な行動をする生徒も見受けられるので、今後も日常生活のあり方が音楽表現に深く結びつくことを自覚させるよう指導を継続する。 実技・学習ともに生徒間の実力差が大きいと、メンタル面を支えながら、長所を伸ばすように指導していく。
1年	基本的な生活習慣を整えるとともに、授業を大切に、何事にも挑戦して主体的に取り組む中で、リーダーとして社会に貢献できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守る、授業を大切に学習姿勢、部活動や行事、清掃などに自発的に取り組むといった姿勢を身につけさせる。 自主自立の精神で、自分から行動するとともに、集団生活において大切な他者への思いやり、気づきの心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や行事など様々な面において積極的に活動する姿勢がみられた。今後も自発的に取り組む姿勢を育てたい。 配慮を要する生徒について、共通理解を深めた。今後も学年団を中心に情報を共有し、対応していく。

2年	学校の中核を成す学年としての自覚を持ち、部活動・学校行事に主体的・積極的協力的に取り組ませる。自己の将来について真摯に考えるとともに、進路実現に向けて計画的に学習に取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と特別活動の切り替えを常に意識させ、時間を有効に使えるよう指導する。 ・基本的な生活習慣を整え、様々な活動を通して公共心や協調性を身に付けられるよう指導する。 ・類型登録に向けて、自己の進路について更に高い意識を持てるよう指導しつつ、幅広くさまざまな分野を学習することの意義を理解させ、授業への誠実な取り組みを最後まで継続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は学習活動と特別活動を両立すべく、時間の使い方を工夫しながら努力した。部活動や学校行事を通して、自ら考えて行動できる生徒が増えた。 ・文理選択を経て進路に対する意識が高まった生徒がいる一方で、成績上位者と下位者との開きが出てきた。また学校に適応できていない生徒もいるので、情報交換を密にし、適切に援助していきたい。
3年	最高学年の生徒として、学業・特別活動などの学校生活の全ての場面で下級生の模範となり、卒業後にはリーダーとして社会に貢献できる人物に成長するよう指導する。生徒各自が自己の進路目標について主体的に考え、実現に向けて計画的に取り組むことができるように援助する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生という立場をわきまえて、場面に応じた適切な行動をとることができるよう指導する。 ・部活動・学校行事にも、最後まで全力で取り組むことができるよう指導する。 ・進路目標・学習状況に関する情報を学年会で共有し、本校生徒の特性を考慮した適切な進路指導・学習指導をする。 ・学校生活への適応について不安を抱える生徒の情報を学年会・保健相談部と共有し、適切な支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や行事の場面では、生徒は上級生にふさわしい活躍を見せた。しかし、感染症の影響で欠席することに対するハードルが下がったことによって、1月に入ってからの欠席が目立った。 ・学年内で意思統一して進路指導ができたが、生徒や保護者の受験に対する意識の変化を感じた。 ・学年会での生徒情報の共有を重視し、関係分掌と連携して、概ね適切に対応することができた。
いじめ防止基本方針に基づく取組		<ol style="list-style-type: none"> ①全職員による日常の観察、「いじめ・迷惑行為調査」の活用により、いじめを未然に防止する。 ②学年会、保健相談部会、教育相談・特別支援教育委員会等での情報共有を密にし、悩みを抱える生徒を組織的に支援する。 	
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組		<ol style="list-style-type: none"> ①職員室の解錠時刻・施錠時刻、電話対応時間、定時退校日を適切に設定し、タイムマネジメントを意識した働き方を推進する。 ②業務の適正化を図るとともに教職員のメンタルヘルスの保持と健康障害の防止に努める。 	
総合評価		<ol style="list-style-type: none"> ①観点別学習評価の研究と実践を通して、指導と評価の一体化を推進することができた。 ②全生徒にタブレット端末を配備し、教育DXを推進することで、授業、探究学習、特別活動など、さまざまな場面でICTを活用した教育が実践された。 ③心身に不調をきたす生徒は増加傾向にあり、スーパーバイザーや医療機関等とも連携し組織的に支援したが、教職員の負担は増加している。 	

2 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> ①今年度の学校評価における評価結果と課題 ②生活実態調査の分析 ③進路指導の現状 ④探究学習・部活動等の成果 ⑤第Ⅲ期SSH事業の取組 ⑥音楽科の取組
自己評価結果について	指導と評価の一体化とICTを活用した教育が推進されている。
今後の改善方策について	<ol style="list-style-type: none"> ①心身に不調をきたす生徒への支援の充実 ②教職員の働き方改革の推進
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ol style="list-style-type: none"> ①今の生徒は昔に比べておとなしく、企画したりリードすることは苦手のような。主体性を尊重し、世界をリードする人材を育ててほしい。 ②ウエストミンスター校とのオンライン交流は素晴らしい企画である。コロナ禍で開発した新たな取組を、今後に生かしてほしい。 ③AIの発展とともに、職業の花形が変わっていく。知識・技能を有することを前提とし、思考力、コミュニケーション力が必要だ。授業にディスカッションや反転形式を取り入れてほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成 …学校評議員及びPTA会長・副会長 評価時期…第1回 11月11日 学校評議員会を実施 第2回 3月3日 学校関係者評価委員会を実施